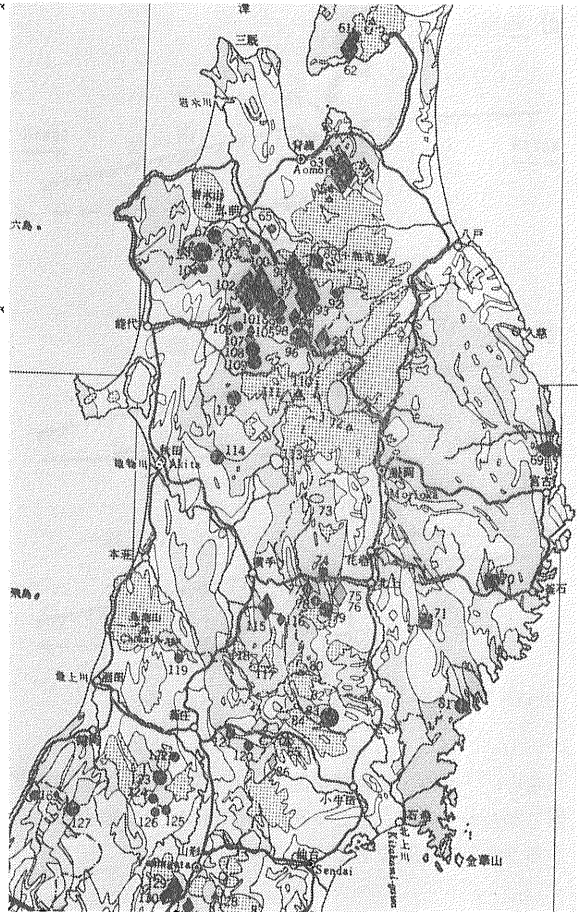


200万分の1地質編集図(日本鉱床分布図)

日本の硫黄・硫化鉄・石膏・重晶石鉱床分布図

17-6



編集 五十嵐俊雄・岡野武雄(鉱床部)

発行 工業技術院地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809, 262-1401
地学文献センター (0423) 62-5050

地質調査所は鉱床部を中心として 北海道支所 各出張所の協力を得て、金属鉱床、非金属鉱床の調査研究を進めてきた。これらの調査研究の成果は それぞれの時点でまとめられ 公表されてきたが 鉱種別に1枚の地図に鉱床の産状や規模を表現したのが この日本鉱床分布図のシリーズである。今度発売される「日本の硫黄・硫化鉄・石膏・重晶石鉱床分布図」は 4種の鉱床を型式別、生産規模別に纏めたもので 硫黄鉱山 75, 硫化鉄鉱山 177, 石膏鉱山 31, 重晶石鉱山 17, を地質図を背景にプロットしてある。

これらのうち 硫化鉄鉱 石膏 重晶石 は単独で鉱床をなすこともあるが 多くの場合 銅 鉛 亜鉛の鉱床に伴って産出する。石膏鉱山31のうちには 花輪, 花岡 石見鉱山など 重晶石鉱山17のうちには 上北, 小坂 花岡鉱山などが取上げられている。しかしこれらの鉱山はいずれも副産物として大量に石膏 重晶石を産するというので 鉱山名としては 例えば花岡銅鉱山と呼ぶことはあっても 花岡重晶石鉱山と呼ぶことはない。この点は注意しよう。

この地図は種々と面白いことを教えてくれる。日本の硫黄鉱床は第四紀の火山に伴って産出することはよく知られていることであるが その生産量からみる元素の濃集度は 圧倒的にいわゆる“那須火山帯”上に集中していることが解かる。これはその著しい例といえよう。また 重晶石は殆んど北海道道南部と北秋田からのみ回収されているが 北秋田では黒鉱鉱床から回収され 北海道では 金属を伴わない鉱床として産出している。

さらに 硫黄鉱では北海道の奥尻島 硫黄が主要系列からはずれていること 能登半島の石膏鉱山も地理的には特異な位置を占めていることなど興味深いものがある。

200 万分の1「日本の硫黄・硫化鉄・石膏・重晶石鉱床分布図」は 大規模なスケールでの鉱床探査 地球的規模の鉱床生成に関する研究には欠かせない資料と云えよう。

地質ニュース	第315号	11月号
	定価 ¥ 500	千実費
昭和55年11月1日	発行	
編集	工業技術院	地質調査所
発行人	林	久雄
発行及	株式会社	実業公報社
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. 265-0951 (代表)	
	振替口座東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	